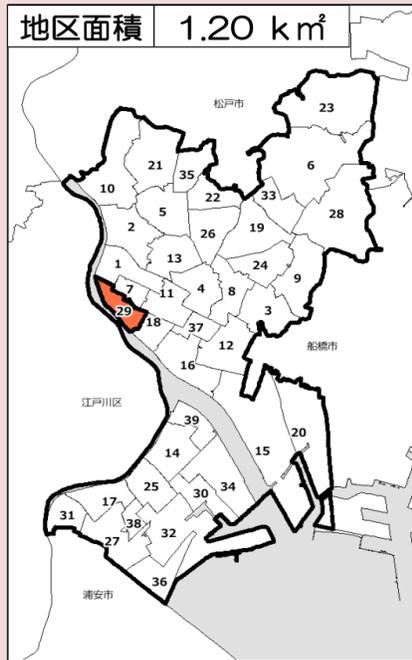


29 大洲小学校区

(1) 位置



(2) 地区概況

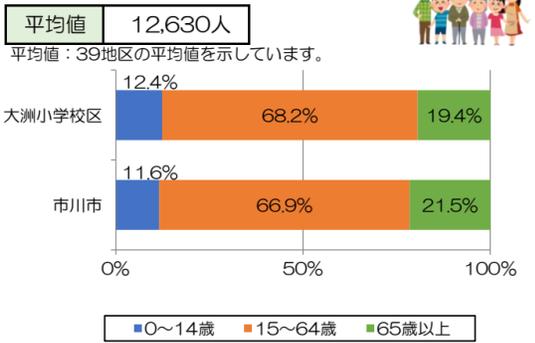
- ◆位置
大洲小学校区は市の中央より西部に位置し、西側は江戸川に面しています。
- ◆地形・土地利用
地形は、氾濫平野で構成されています。地区の中央は、工業地域になっており工場が立地していますが、近年は宅地化により住宅も立地し、住工混在した地域となっています。
- ◆都市基盤
地区の南東から北にかけて県道283号線（産業道路）が通っています。地区内には災害時の拠点となる大洲防災公園や、江戸川河川敷があり、救援物資輸送を目的とした市川緊急用船着場があります。また、地区内には、JR市川駅やJR本八幡駅行きの京成バスが通っています。

(3) 人口・建物概況

◆人口

年齢別割合			
	大洲小学校区	市川市	割合※
人口総数	11,298人	492,564人	2.3%

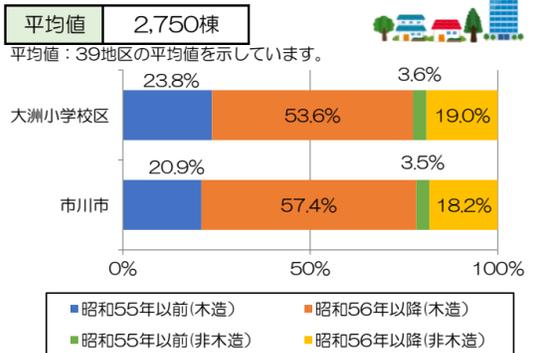
※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合



◆建物

構造別割合			
	大洲小学校区	市川市	割合※
建物総数	2,274棟	107,267棟	2.1%

※割合：市全体の総数に対する地区総数の割合



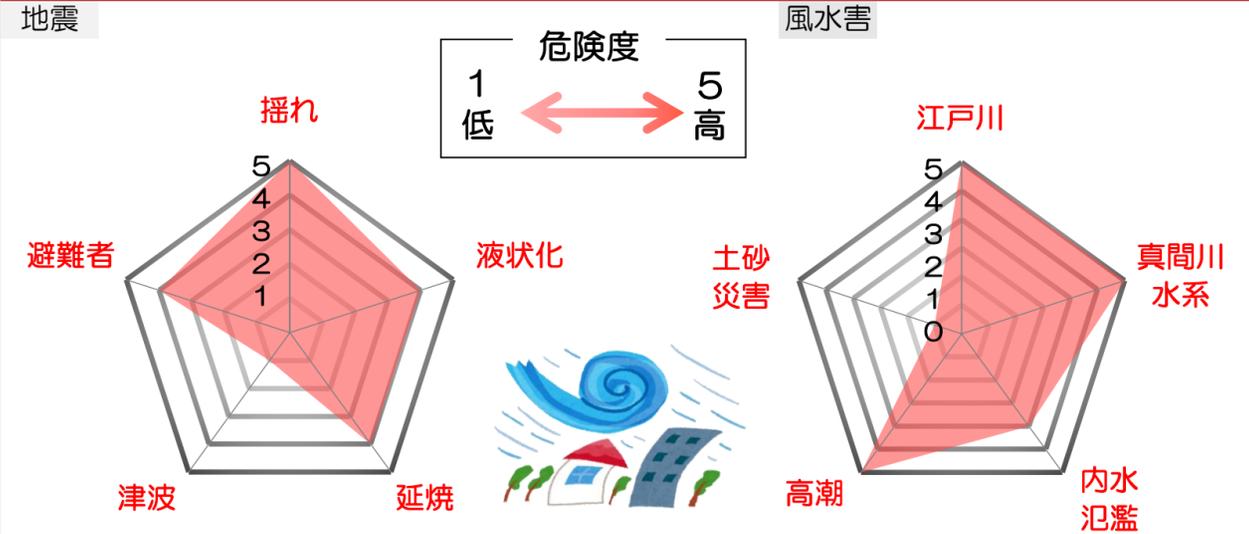
地区の人口は、全地区の平均人口より少ないです。市全体と比較すると15~64歳の割合がやや高く、現役世代がやや多い地区となっています。

地区の建物は平均よりやや少ないです。市全体と比較すると昭和56年以降の新耐震基準の建物割合がやや低いです。木造・非木造の割合は市全体と同程度です。

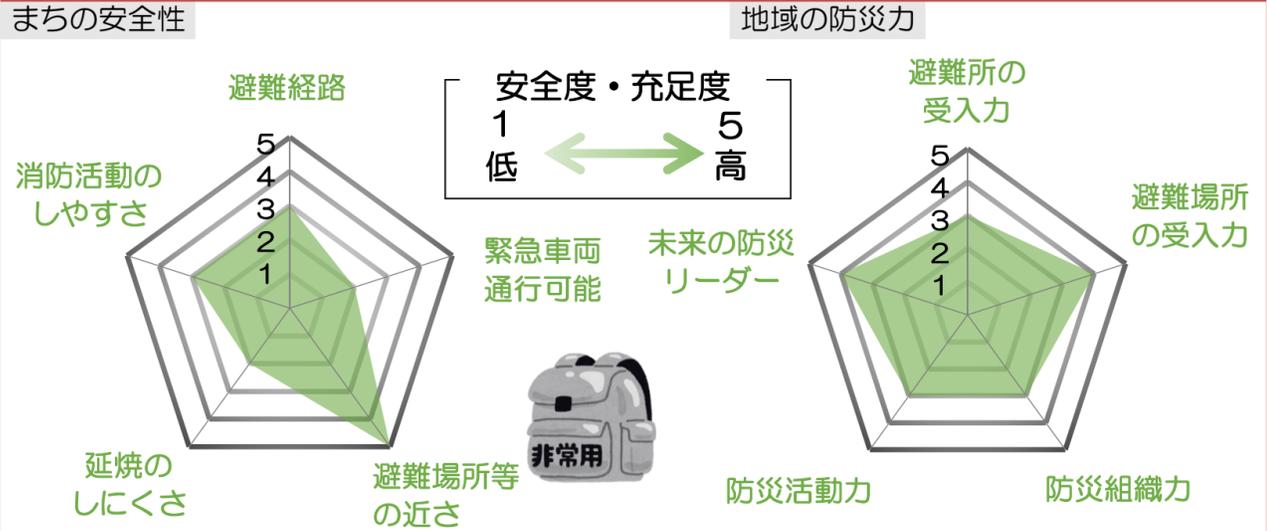
(4) 災害リスク評価

災害に対する弱み（マイナス）については、5に近づくほど危険度が高くなり、災害に対する強み（プラス面）については、5に近づくほど安全度や充足度が高くなります。災害リスクは、後述の地震被害想定や浸水想定の結果、各地区の現状データを用いて相対的に評価しています。

◆災害に対する弱み（マイナス面）



◆災害に対する強み（プラス面）



◆評価

大洲小学校区は、地震災害については、全域で震度6強の揺れが予測され、揺れ、液状化の危険性、延焼による危険性が高く、避難者が多く発生する傾向にあります。風水害については、江戸川に面していることから、江戸川の氾濫による浸水の危険性が高く、真間川水系の氾濫、高潮による浸水の危険性も高い傾向にあります。一方で、まちの安全性については、避難場所等の近さは高い傾向にあるものの、緊急車両通行可能道路の充足度、延焼のしにくさは低い傾向にあります。また、地域の防災力については、避難場所の受入力、未来の防災リーダーは高い傾向にあります。

(5) 防災関連施設

◆避難所及び福祉避難所

施設名	福祉避難所	施設名	福祉避難所
大洲小学校	-		
大洲中学校	-		
こども発達センター	-		

◆避難場所

名称
大洲小学校
大洲中学校
こども発達センター
江戸川河川敷緑地
大洲防災公園

◆地区内の主な施設

種別	施設名	施設名	種別	施設名
要配慮者利用施設(公設)	大洲こども館		医療救護所	急病診療所前(大洲防災公園)
			関連施設	大洲交番



(6) 被害想定結果(地震・風水害)

◆地震災害(被害を受ける割合)

想定項目	大洲小学校区	市川市全体
建物被害		
全壊棟数の割合(揺れ・液状化・急傾斜地崩壊)	7.6%	4.8%
半壊棟数の割合(揺れ・液状化・急傾斜地崩壊)	15.4%	11.8%
焼失棟数の割合	14.0%	10.2%
浸水棟数(津波)の割合	0.0%	1.1%
人的被害		
死者の割合	0.1%	0.1%
負傷者の割合	0.5%	0.4%
避難者の割合	27.8%	20.0%



◆風水害(被害を受ける割合)

想定項目	大洲小学校区	市川市全体
建物被害		
浸水棟数(江戸川)の割合	100.0%	52.9%
浸水棟数(真間川)の割合	100.0%	47.7%
浸水棟数(内水)の割合	58.4%	57.9%
浸水棟数(高潮)の割合	100.0%	64.9%



市全体の結果と比較すると、地震災害については、新耐震基準の建物割合がやや低く地震の揺れが特に強いため、建物被害が多く、広域のクラスターが形成されるため焼失被害もやや多い傾向となっています。人的被害については、特に避難者が市全体より多くなっています。

一方で、風水害については、江戸川に面していることから、江戸川の氾濫による影響が大きく、真間川水系の氾濫、内水氾濫、高潮の浸水による影響も受け、市全体と比較して浸水棟数は多くなっています。

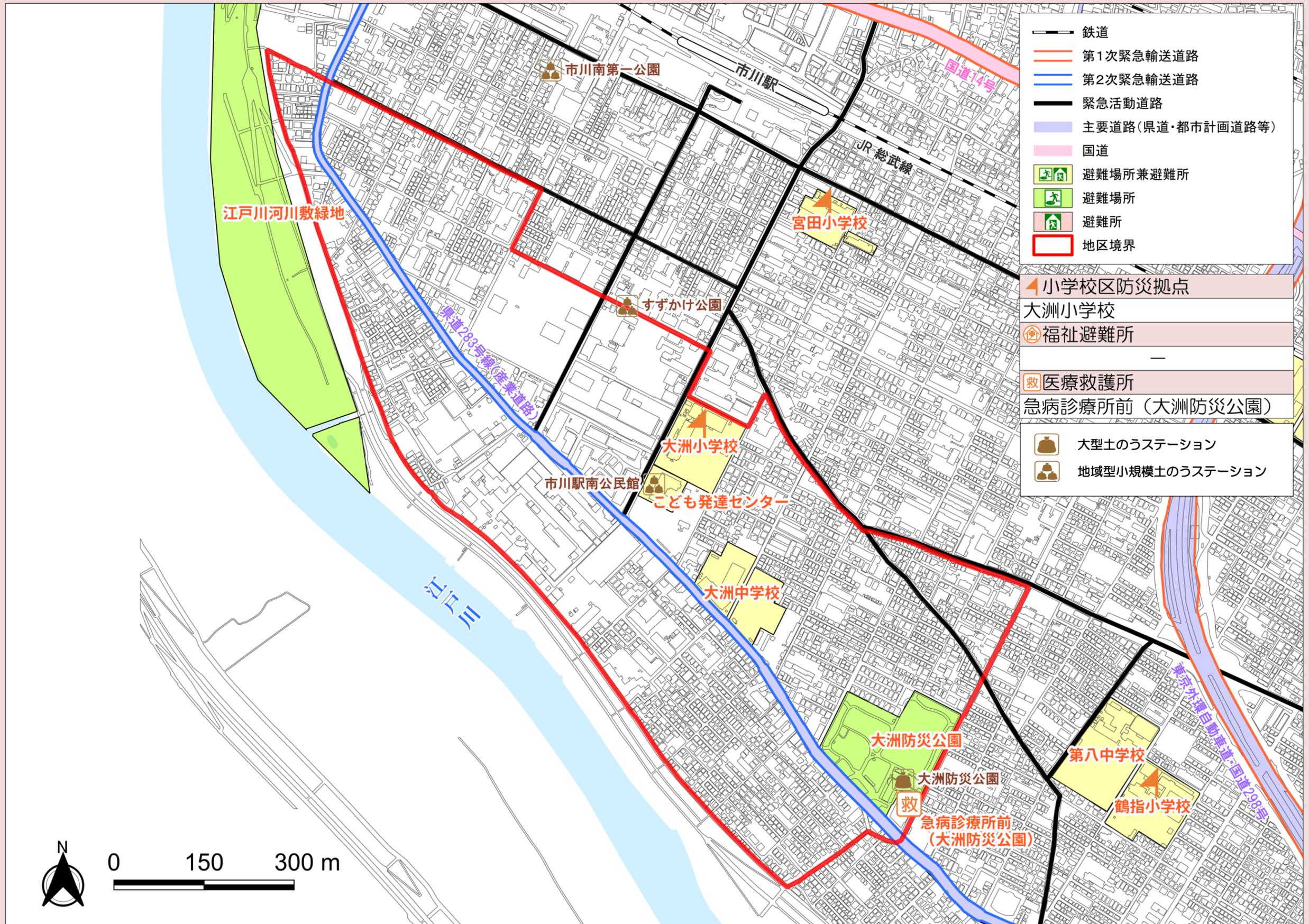
(7) 防災上の課題

項目	課題
地震	地区全域において、震度6強の揺れが予測され、液状化や延焼による危険性が高いことから、耐震対策や延焼対策、初期消火対策、ライフライン途絶に備えた家庭での備蓄対策等が重要です。
風水害	西側に江戸川が面していることから、河川氾濫による浸水被害や内水氾濫の恐れがあり、また、高潮による浸水の恐れがあることから、浸水対策や円滑な避難に備えることが重要です。
まちの安全性	地区には、狭い道路が多いことから、緊急車両が通行可能な道路が重要です。また、延焼遮断帯となる空地や耐火建築物の占める割合が低いことから、初期消火の対策が重要です。
地域の防災力	地区では、地域の防災力が比較的高い傾向を示しているものの、さらに防災組織結成の促進や既存組織での訓練などの取り組み、防災活動に取り組んでいくことが重要です。

(8) 防災対策の方向性

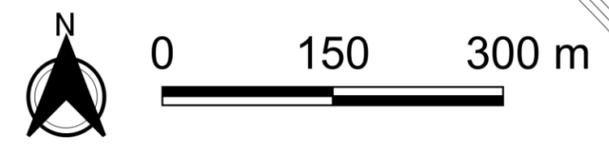
項目	取組の方向性
地域の取組	地区内には、狭い道路が多く、緊急車両が通行可能な道路の確保が大切であることから、市の助成制度である「危険コンクリートブロック塀等除却」や「生垣助成」の助成を利用したブロック塀等の倒壊による災害防止をしておくことが効果的です。 消防活動に対する対策として、市が実施する避難訓練や消火訓練等に地域ぐるみで積極的に参加することが重要です。
個人の取組	地震に対する備えとしては、市の助成制度である「耐震改修助成制度」を利用した耐震改修工事による自宅の耐震化対策や、「あんしん住宅助成」を利用した感震ブレーカーの設置を進めるとともに、家具の固定など自宅(家庭)の防災性を向上させることが効果的です。 一方、風水害に対する備えとしては、同じく「あんしん住宅助成」を利用した防水板の設置や、土のうステーション等を活用した浸水対策とともに、いざという時円滑に避難できるように、市からの情報収集方法や浸水想定区域外の避難場所等をあらかじめ水害ハザードマップ等で確認しておくことが効果的です。 避難経路の確保ができない可能性が考えられることから、まちあるき等を通して避難経路についてあらかじめ複数確認しておくことが必要です。

(9) 防災マップ



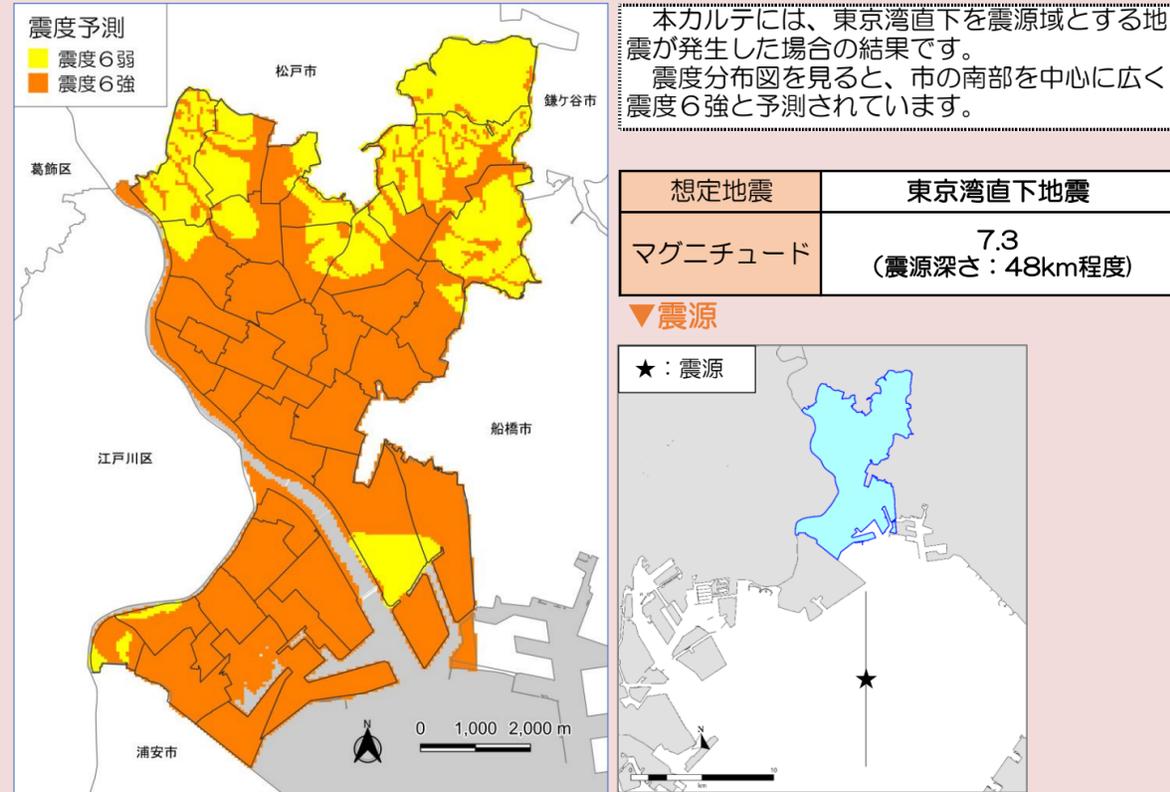
- 鉄道
- 第1次緊急輸送道路
- 第2次緊急輸送道路
- 緊急活動道路
- 主要道路(県道・都市計画道路等)
- 国道
- 避難場所兼避難所
- 避難場所
- 避難所
- 地区境界

- 小学校区防災拠点**
- 大洲小学校
 - 福祉避難所
 - 医療救護所
 - 急病診療所前(大洲防災公園)
 - 大型土のうステーション
 - 地域型小規模土のうステーション

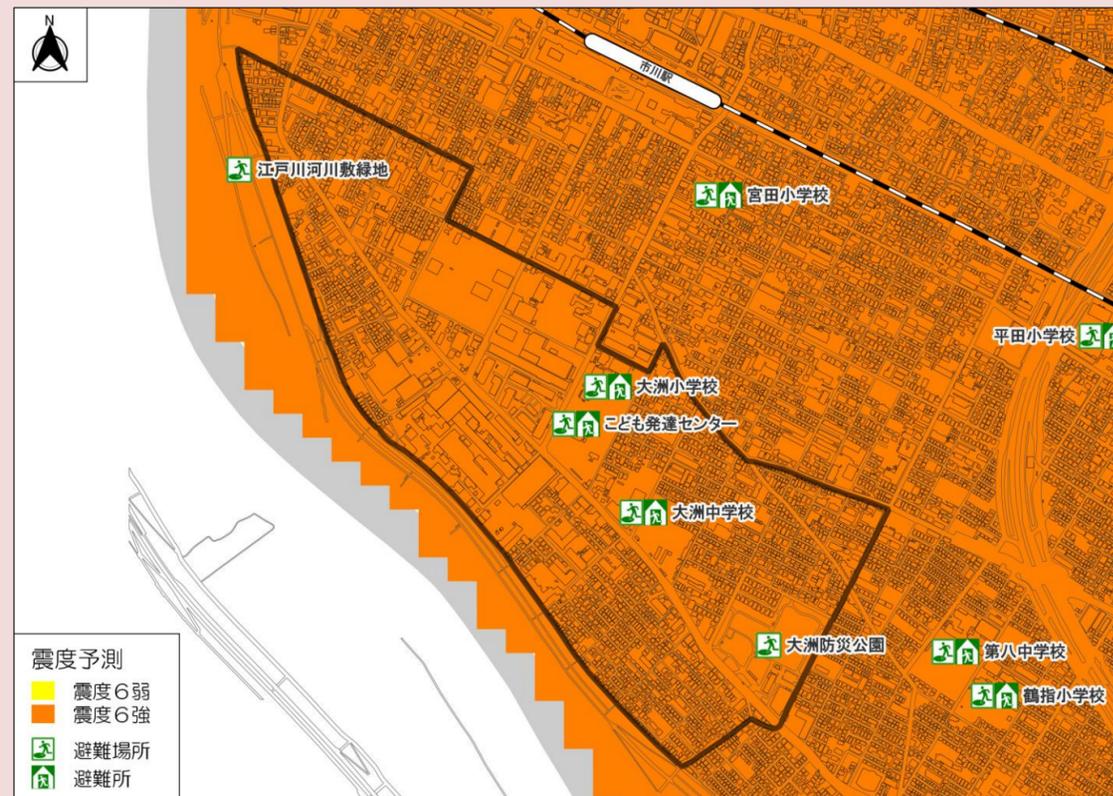


(10) 基礎資料

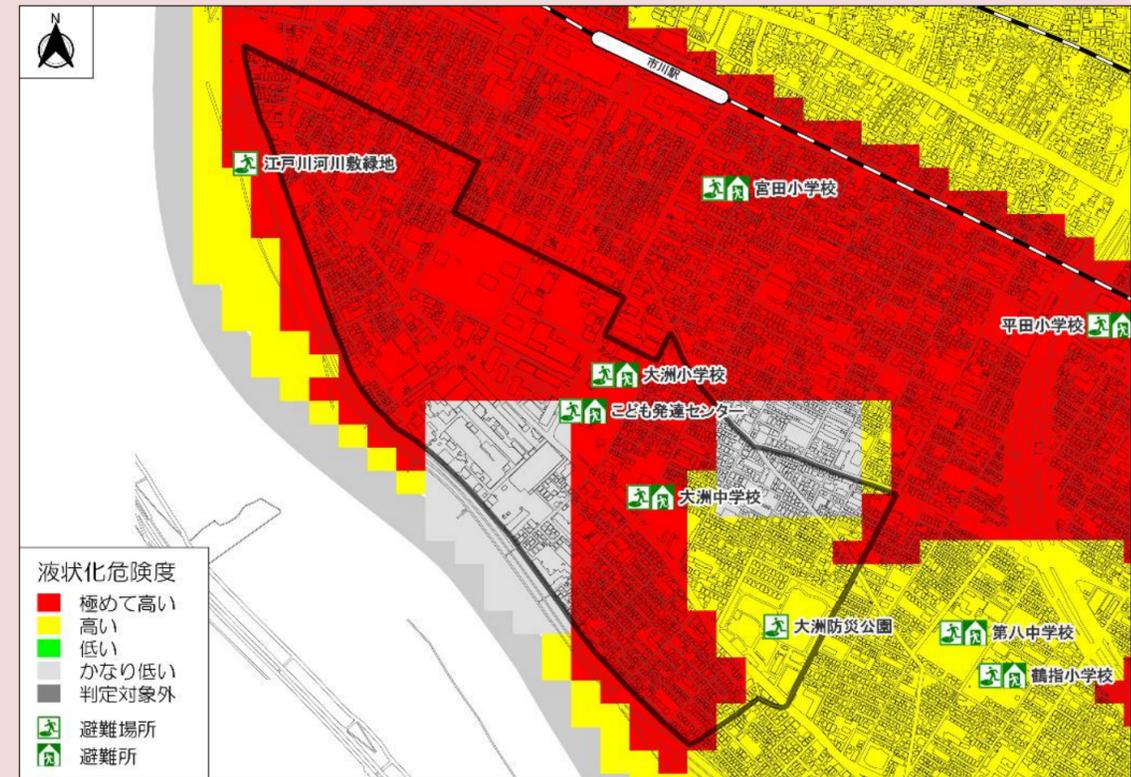
①市全域の震度分布図



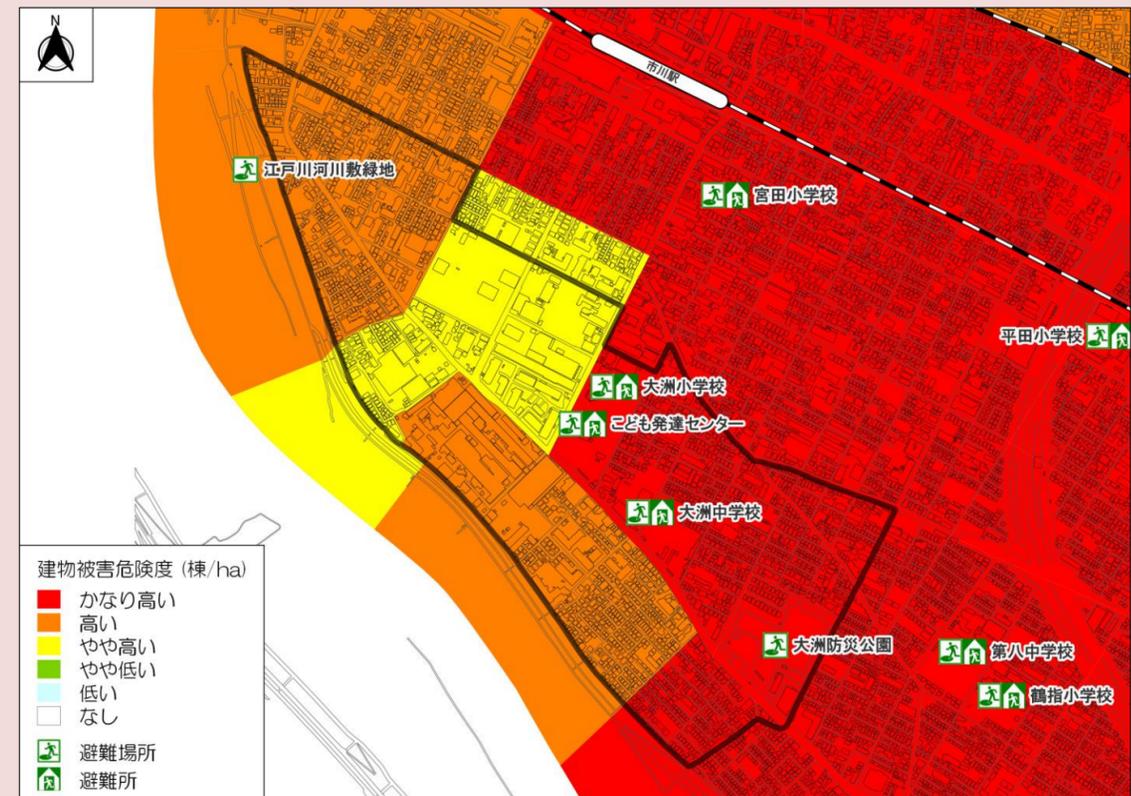
②震度分布図



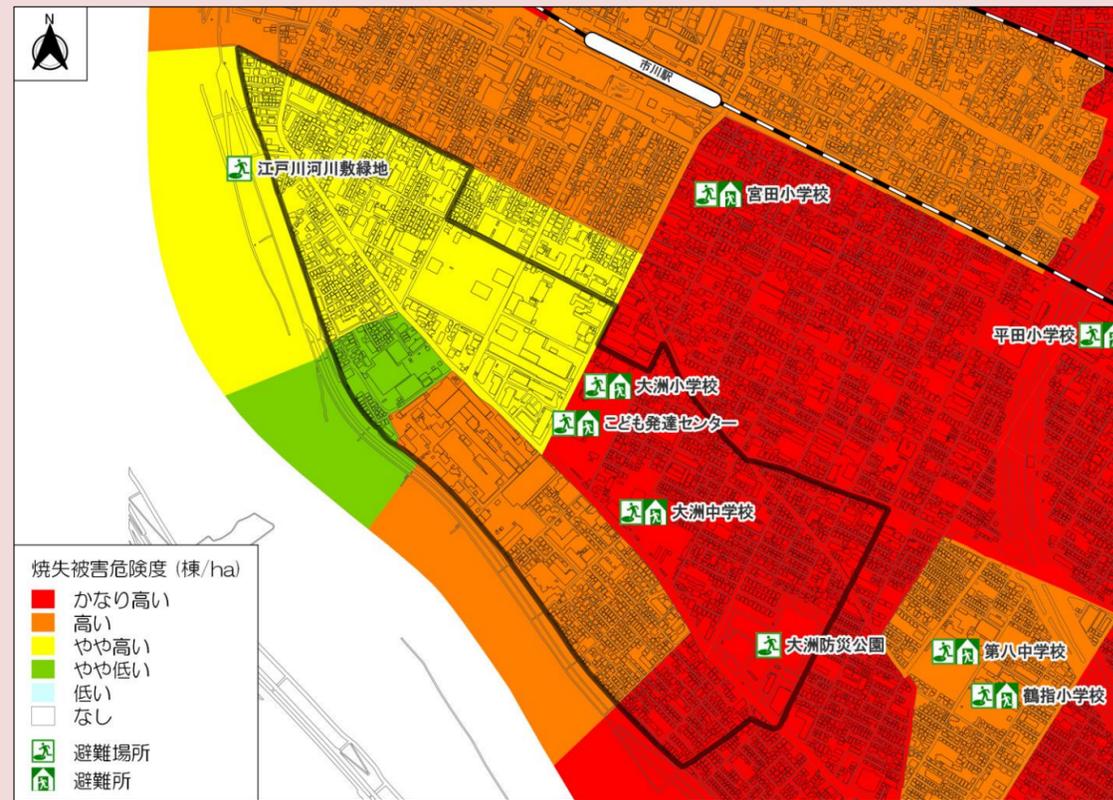
③液状化危険度



④建物被害（揺れ・液状化による被害）



⑤建物被害（延焼による被害）



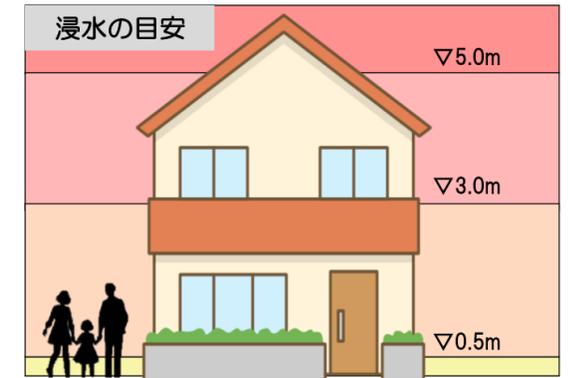
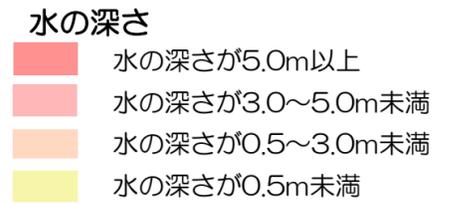
⑦浸水想定の概要

江戸川の氾濫及び真間川の氾濫、内水の氾濫、高潮による浸水想定区域を示しています。

災害時にすばやく避難できるようにあらかじめ浸水想定区域外の避難所及び避難場所について確認しましょう。

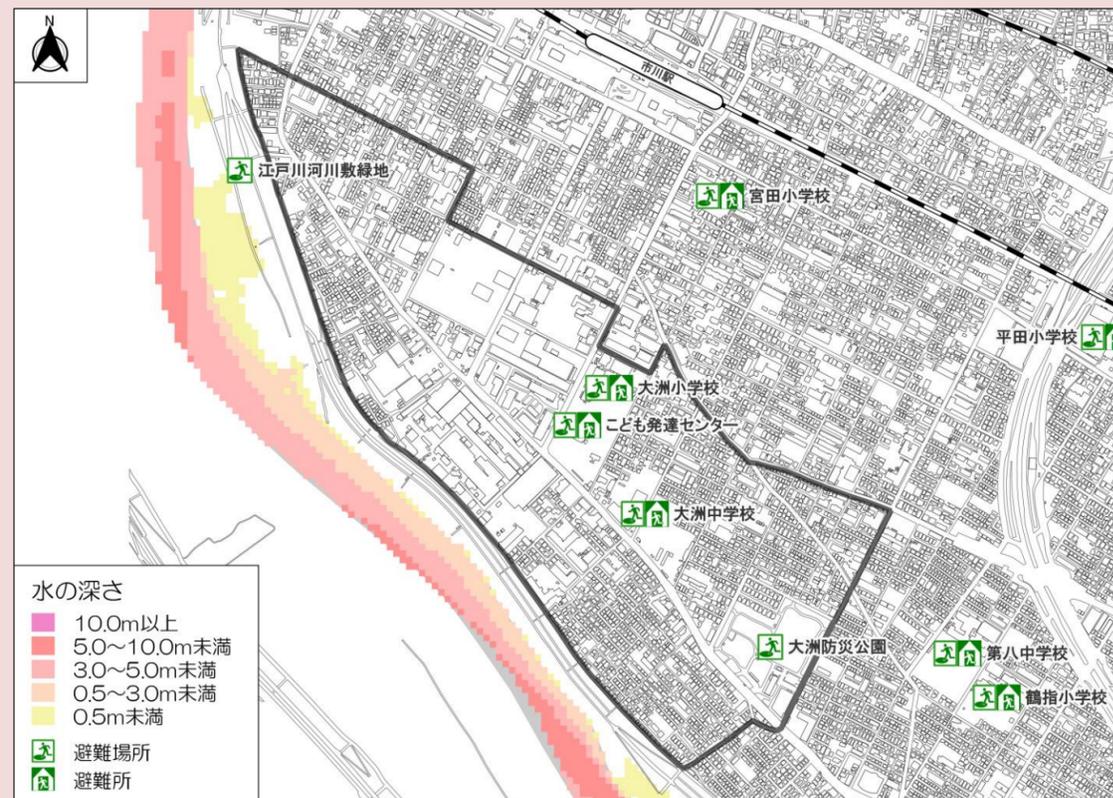
また、避難経路上の浸水状況も確認しておきましょう。

避難にあたっては、市指定の避難所にこだわらず、浸水しない地域の知人宅、職場などに避難することも有効です。



※浸水の凡例区分及び配色については市川市で任意に設定しています。

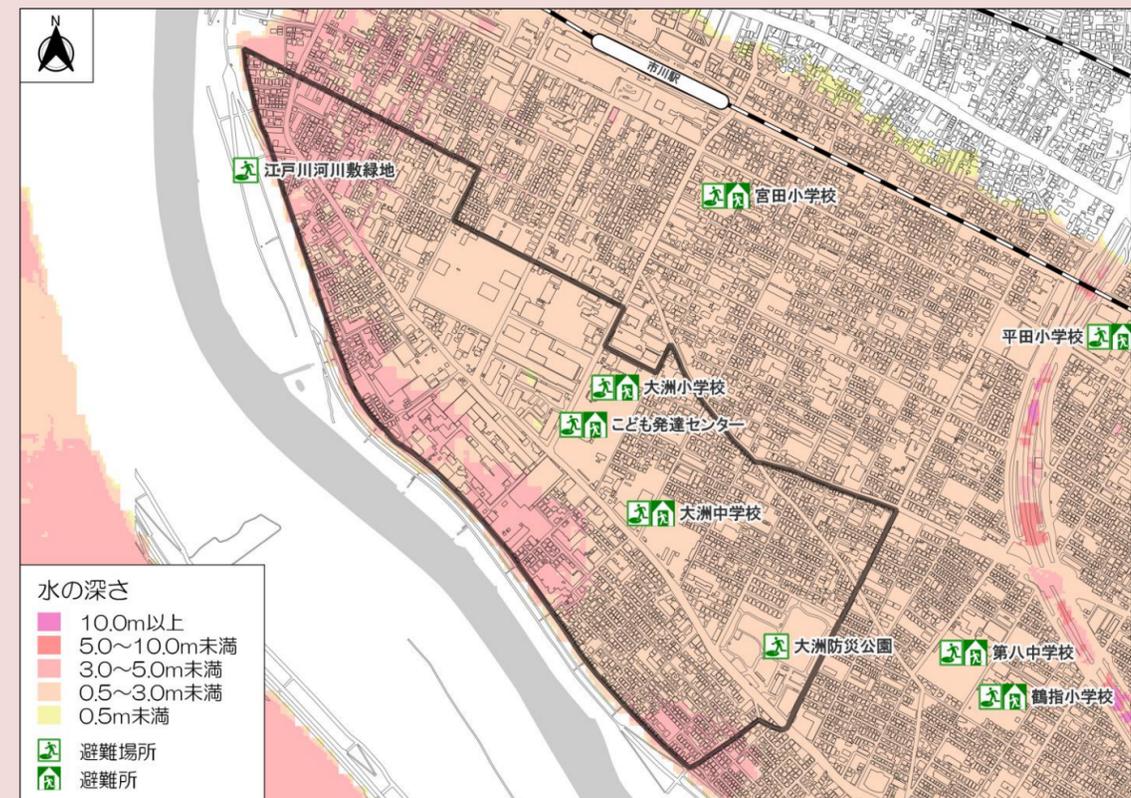
⑥津波による影響



※津波の河川遡上による市街地への影響はありません。

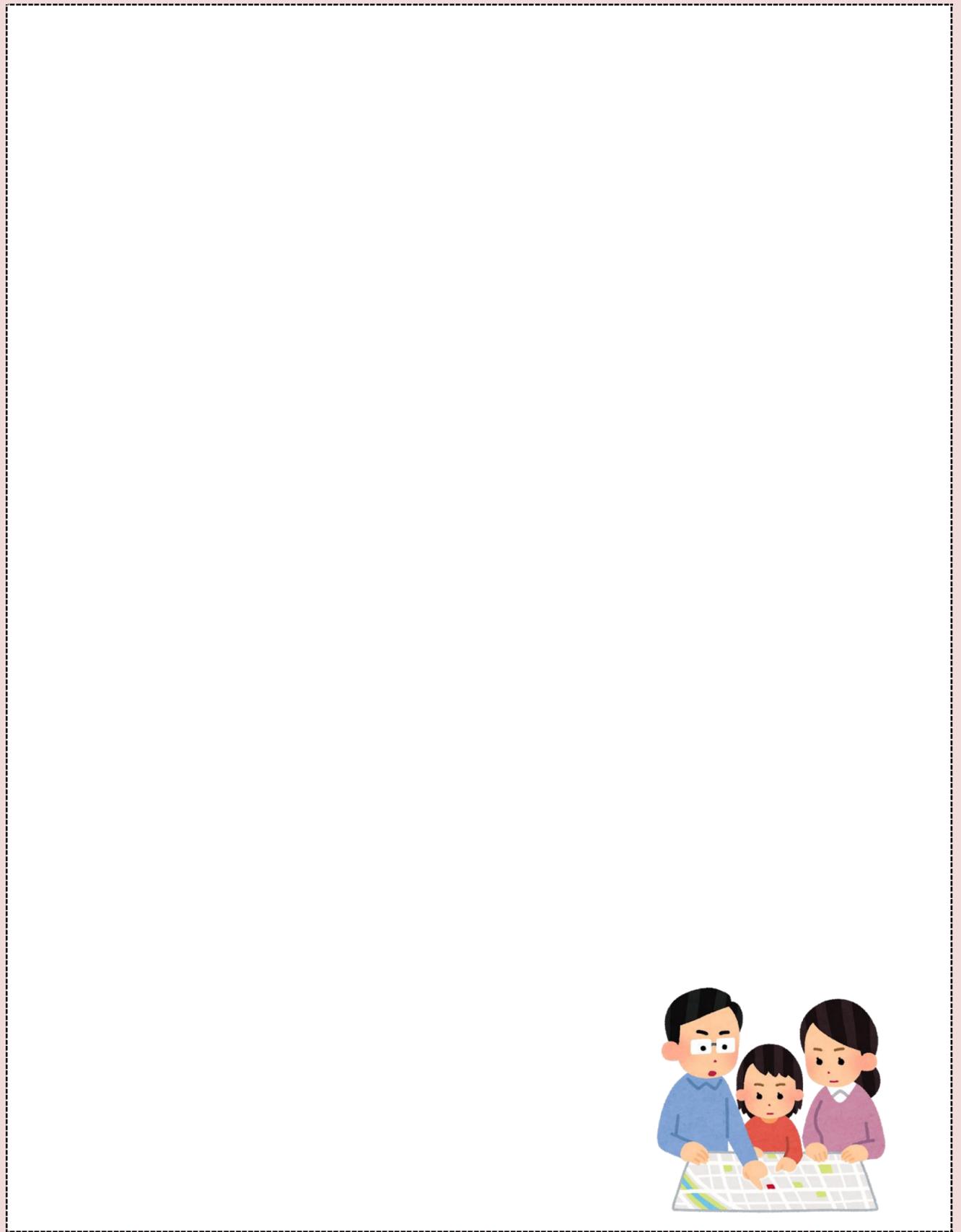
平成24年4月：千葉県

⑧洪水（江戸川）

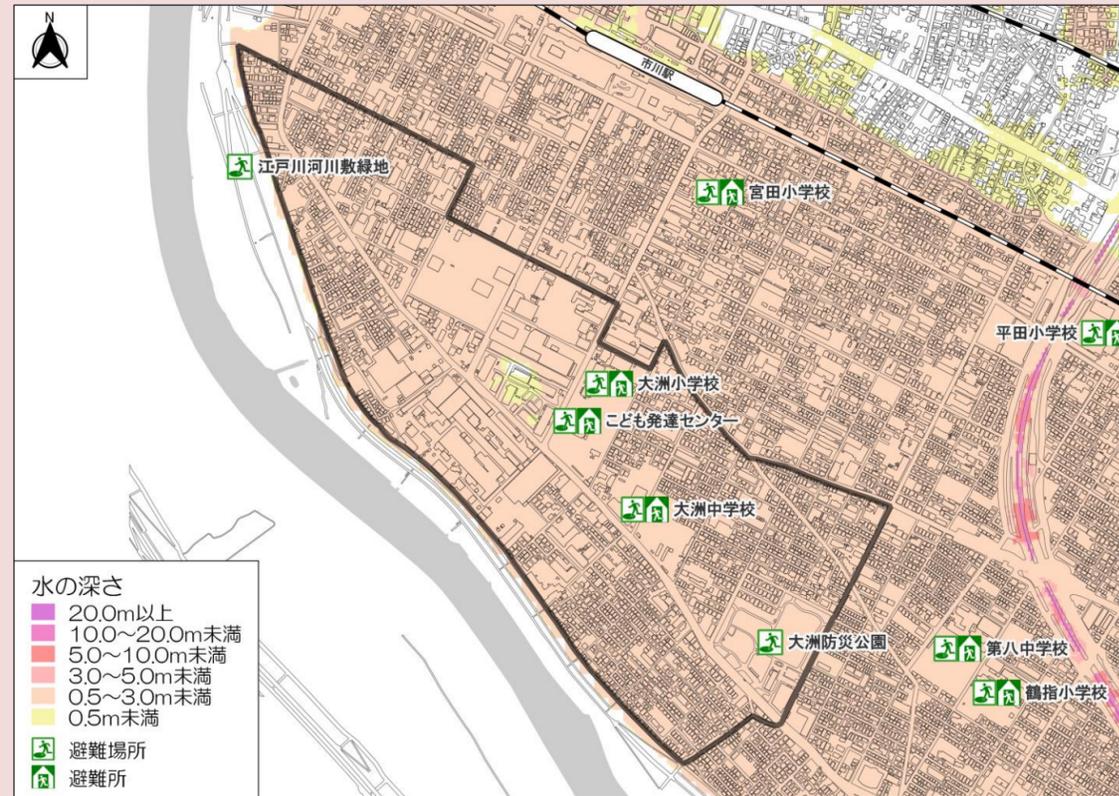


平成29年7月：国土交通省

◆メモ

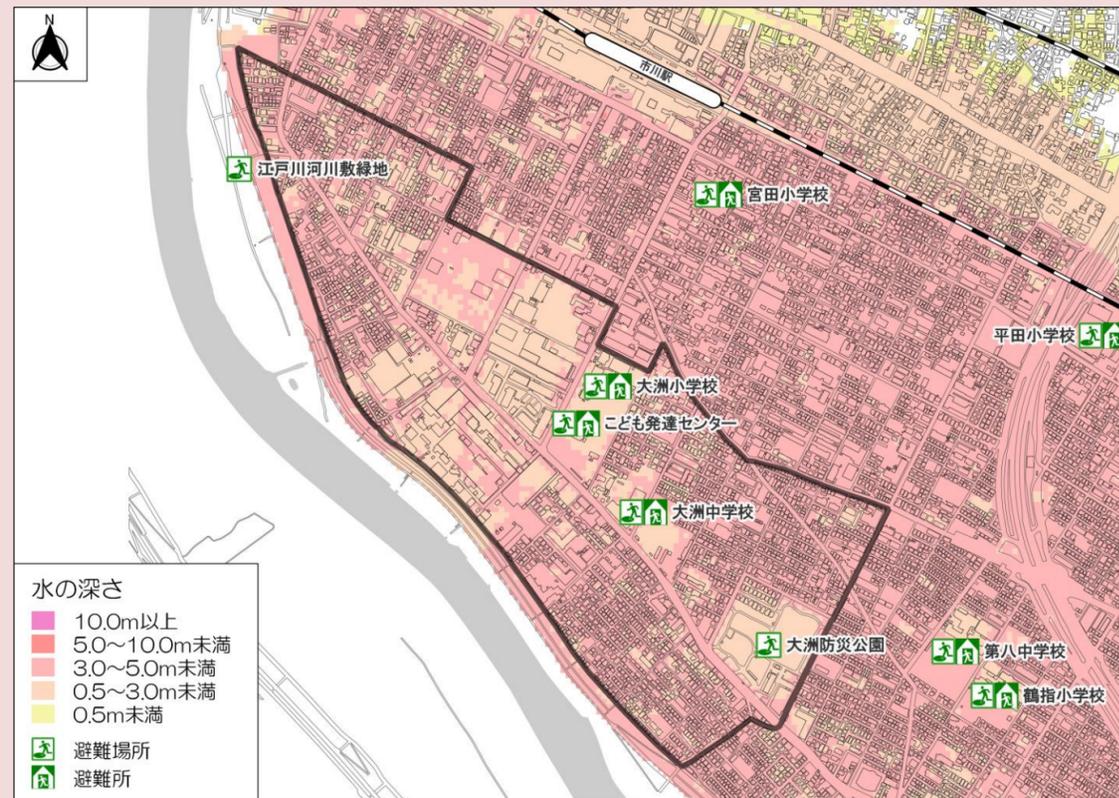


⑨真間川水系・内水氾濫



令和元年：千葉県(真間川水系)、令和2年：市川市(内水氾濫)、令和4年：千葉県(小規模河川)

⑩高潮



平成30年11月：千葉県